

## ちや 紡う移民たちの紡ぐ物語へ 挨拶にかえて

奥村 一郎（和歌山県立近代美術館学芸員・教育普及課長）

「移民県」と呼ばれる和歌山県では、多くの人びとが海をわたり、アメリカやオーストラリア、中南米などへ出稼ぎした歴史があります。それは漁業や農業など様々な産業に従事するばかりでなく、美術家として活躍した人も少なくありません。これまで和歌山県立近代美術館（MOMAW）では、石垣栄太郎やヘンリー杉本など、特に戦前のアメリカで活動した和歌山出身の画家に注目し、調査研究を進め、展覧会を開催してきました。また美術家たちの作品が、その制作の背景となる移民の歴史と深く結びついていることも重視し、関係機関と連携しながら特徴ある和歌山県の文化としての広く移民史を捉えることを試みてきました。

そして2022年からは、「和歌山移民研究を軸とした国際交流事業実行委員会」を組織して文化庁の助成を受け、移民と美術をめぐる調査と広域ネットワーク構築を図ってきました。連携先は、太地町教育委員会、和歌山大学紀州経済史文化史研究所、JICA横浜海外移住資料館など多岐にわたり、2024年にはロサンゼルス<sup>ロサンゼルス</sup>の全米日系人博物館（JANM）と姉妹ミュージアム提携を締結しました。

2023年に開催した展覧会「トランスボーダー 和歌山とアメリカをめぐる移民と美術」は、こうした連携の成果のひとつです。同展では、これまであまり注目されてきたとは言い難い、移民たちが多く生活したアメリカ西海岸、特にカリフォルニアをめぐる移民と美術についての歴史を双方向から見直し発信することを目指しました。ロサンゼルス<sup>ロサンゼルス</sup>の日本人街リトル・トーキョーを中心に活躍した上山<sup>うえやまと き お</sup>鳥城男は、この展覧会であらたに和歌山県出身の画家として紹介できた人物ですが、調査のなかで、上山やヘンリー杉本、竹久夢二、そして小圃<sup>おぼた</sup>千浦といった画家たちがモントレイ<sup>モントレイ</sup>地域を訪れていたことを知ります。そしてポイントロボスという場所で、千葉県出身の小谷<sup>こだに</sup>源之助や仲治郎がアワビ漁を事業として展開し、小谷家のゲストハウスに彼らが滞在して制作を行っていたこともわかりました。こうした千葉県（房州）とモントレイをめぐる水産の歴史の調査を先駆的に行っていたのが、地域を舞台として先進的なエコミュージアム活動を展開しているNPO法人安房文化遺産フォーラムです。

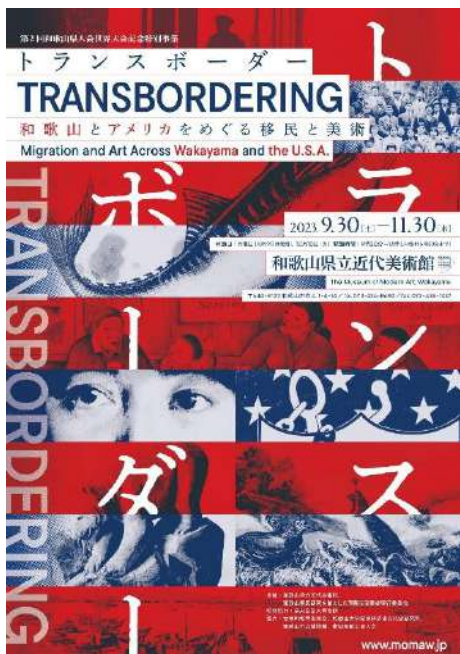
「和歌山移民研究を軸とした国際交流事業実行委員会」では、国内外の広域にわたり、移民史、水産史、美術史など異なる分野を専門とする諸機関の連携により、複眼的な視点で地域資源を磨き上げ、地域史の再構築を目指してきました。そして2025年度には、安房文化遺産フォーラムが実行委員会へと参画し、新たな継続のかたちへと繋がることになりました。

和歌山県（紀州）と千葉県（房州）には、今でも同じ地名が数多く残っています。西の紀伊半島から東の房総半島へ、陸路が基本となった現代では互いに遠く感じられるものの、黒潮が繋ぐ海路は、古くから両地を文化的にも経済的にも結びつけてきました。

明治期から大正期にかけて、南紀州を中心とする和歌山県人が海を越えたころ、千葉県安房地域でもアワビ漁の専門性をもつ人びとが渡米し、カリフォルニア州モントレイ地域で活躍しました。太平洋を挟んだ両岸から、紀州と房州、モントレイが共有する歴史は、黒潮を介して交差し、日本と北米を繋いでいます。

2025年秋には、3地域の実行委員会メンバーが集まり、移民、産業、美術、文化のつながりを明らかにすることを目的として、互いの地域で合同調査を行いました。参加者には研究者、学芸員、映像制作者、そして日系移民の子孫が含まれています。安房文化遺産フォーラムが長年交流を続け、また太地町教育委員会とも縁のある、日系アメリカ人市民同盟（JACL）モントレイ半島支部にも大変お世話になりました。ここのヘリテージセンターには、安房から贈られた漁師の晴れ着「万祝」<sup>まいわい</sup>があります。モントレイにて器械式潜水でアワビ漁をしていた漁師のもので、背中には日米の国旗などが染められていました。1世紀以上前の友情の証です。

二つの海岸線を結ぶ糸を辿ることで、紀州と房州の関係性がより明確に浮かび上がってきました。それぞれが進めてきた地域史発掘の取り組みは、いま、新たに繋がりをもった歴史を明らかにし始めているのです。さらに、それぞれ遠く離れた和歌山、千葉、モントレイ、そしてロサンゼルスが、互いの歴史を学ぶことで、むしろ近い存在であったことが分かってきました。カリフォルニアでの先人たちの交流は、黒潮の流れによってもたらされたものと言えるでしょう。長らく目を向けられずにいた繋がり糸は、100年あまりを経て再び、結ばれつつあります。境界線を越えて協働するプロジェクトは、地域横断的な対話を通じ、移民の歴史は過去から現在へと共鳴し、今日の地域やコミュニティの新たな関係を育んでいます。



「トランスボーダー 和歌山とアメリカをめぐる移民と美術」チラン  
2023年9月30日～11月30日



まちかどミニ博物館の展示  
(南房総市千倉町千田) 2025年2月